

では熱風によって一日にして草原が枯れ、その草花は煮炊きの燃料にされます。しかし、それが神の営みの中にあり、花の営みが神のみ手であれば、自分の美しさを知らずとも思い悩みはないのです。罪なき存在であるからです。罪なき存在というのは全く神の御心に従っているということです。神の創造と摂理に従っているのです。

あなたがたにはなおさら

主は「まして、あなたがたにはなおさらのことではないか」と言われます。御心に従いそれに委ねることをしないで、自分中心に生きようとする人間に対して、そういわれるのです。そこには、野の花以上に目を向けてくださる主イエスがおられるのです。

人が野の花に比べ勝っているものがあるでしょうか。むしろ人は神を忘れ、自分の腹を神として、自分に生きようとしているのです。

そのとき主イエスは、わざわざ「信仰の薄い者たちよ」と言われました。小さな信仰のものに目を向けられるのです。主はこの小さな信仰に関わってくださいからです。

わたしたちの信仰は、わたしたちのはかなさ以上に不確かです。信仰を持っていないと言っても、いつも信仰と不信仰を行ったり来たりしているようなものです。

主イエスのところに「できれば癒していただきたい」と、悪霊につかれた息子を連れてきた父親がいました(マルコ九・一二)。主イエスは「できればと言うか。信じる者には何でもできる」とその信仰を問われました。父親はすぐに「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」と告白します。(同九・二三〜二四)わたしたちの信仰もようやく自分の不信仰に気づくようなものです。しかし、この不信仰に気づくような信仰に

主は目を向けてくださるのです。信仰の薄いもの、それこそわたしたちの姿です。

そして、それだからこそ主は語り掛けられ、さらに御自分で十字架に向かわれたのです。まさに不信仰なものの罪を負い、その罪の代償となり、赦されるためにです。

主は御自分の命によって、罪の赦しをお与えになりました。そして主の十字架の贖いによって赦しを信じる信仰を与えられました。イエス・キリストの十字架を信じる者を喜ばれるのです。

わたしたちの装い

主はわたしたちに「イエス・キリストの十字架によって赦されたもの」という装いをお与えくださいました。赦された者としてわたしたちを愛してくださいているのです。わたしたちが主によって「あなたがたにはなおさらのことではないか」と言われるのは、そのように主イエスが愛されるからです。

み赦しを信じ、このはかなさの中で神の愛に生きようとするものを主は確かに愛し慈しんでくださるのです。それゆえ、思い悩むよりも神に信頼して生きることが必要なのです。

それを知るには、この主イエスの語られた言葉を受け入れそれに信頼する信仰によるしかないのです。そのとき、主は「主に赦されたもの」という装いをお与えくださるのです。

主イエスの山上の説教の場面はわたしたちの礼拝に引き継がれています。わたしたちもこのように礼拝に招かれ、主の言葉として聖書に聞きます。そこで、あたかも主イエスが語り掛けられているように聞き取りそれを喜んで受け止めることができます。空の鳥をこ覧になり、野の花を見つめられた主はなおさらわたしたちに目を向けてくださるからです。

(一〇月二四日 公同礼拝)

一〇月講壇一覽

- 第一主日(一〇月三日) 創立記念公同礼拝
「慰めの教会」
イザヤ四〇・一〜八
コリントⅡ・一・四
高橋和人牧師
- 第二主日(一〇月一〇日) 公同礼拝
「思い悩むな」
詩編五五・二三
マタイ六・二五〜二六
高橋和人牧師
- 第三主日(一〇月一七日) 公同礼拝
「キリストの体である教会」
エレミヤ書三一・三一〜三四
コリントⅠ・一二三〜二六
姜俔米牧師
- 第四主日(一〇月二四日) 公同礼拝
「神による装い」
詩編三九・五〜八
マタイ六・二七〜三〇
高橋和人牧師
- 第五主日(一〇月三十一日) 公同礼拝
「主の体をわきまえて歩む」
詩編 九六・一〜三
コリントⅠ・一二七〜三四
姜俔米牧師

十一月講壇一覽

- 第一主日(十一月七日) 公同礼拝
「神の国と神の義を求めよ」
申命記一〇・一二〜一五
マタイ六・三三〜三四
高橋和人牧師
- 第二主日(十一月十四日) 公同礼拝
「目の丸太を取れ」
エレミヤ 五・二〇〜二五
マタイ七・一〜五
高橋和人牧師
- 第三主日(十一月二十一日) 公同礼拝
「聖なるものを分けよ」
レビ記一〇・八〜一一
マタイ 七・六
高橋和人牧師
- 第四主日(十一月二十八日) 待降節公同礼拝
「喜びの知らせ」
イザヤ一・一〜一〇
ルカ 一・五〜二五
姜俔米牧師